

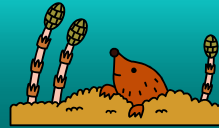


AUE News

2012年2月15日

第 34 号

編集・発行
愛知教育大学広報部会
TEL 0566-26-2738
FAX 0566-26-2500



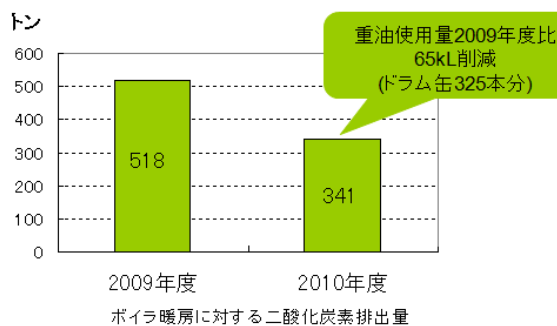
目次

- 省エネニュース@愛教大
- 行事予定(2月16日-29日)
- トピックス
 - ・台湾新竹教育大学一行が来学
 - ・就職ガイダンス
 - ・第2回LA防災セミナー
 - ・第41回ふよう美術展
 - ・花壇の整備
 - ・学生と税理士が税の討論会
 - ・「東日本大震災と日本の転換をどう教えるか—「東日本大震災報道写真展」巡回展—
 - ・第7回日銀グランプリ優秀賞受賞報告会
- ・第3回LA防災セミナー
- ・元素周期表サイト「げんそキッズ」開設1周年
- ・愛教大の造形展
- ・韓国光州教育大学校長一行が来学
- ・書道専9期生・書友会「卒展」
- お知らせ・報告・投稿
 - ・教員採用試験支援のための教員研修会
 - ・AUEウインタースクール「日本語集中研修基礎コース」を初開催
 - ・JICA研修生を受け入れて
 - ・催しもの案内

省エネニュース@愛教大

2011年度愛知教育大学緊急節電対策の啓発活動として、「AUE News」で省エネに関するニュースをお知らせします。今回はNo.16(作成は「省エネワーキンググループ」)です。冬の省エネのポイントを紹介いたします。皆さん、引き続き、節電にご協力ください。

NO16 こまめな暖房温度管理で省エネ！



●大学ボイラ暖房施設「省エネ」のポイント

①こまめな出口温度管理を行い、大幅なCO₂削減に成功！

2011年度は、「室内温度」と「ボイラ運転」に気をつけながら「さらなる削減」に努めます！



行事予定(2/16-29)

- 17日(金) 地域連携会議(13:30～ 第三会議室)
職員研修(15:30～ 第五会議室)
- 21日(火) 役員会(13:00～ 学長室)
- 22日(水) 安全衛生委員会(16:00～ 第三会議室)
- 23日(木) 情報システム委員会(10:00～ 第三会議室)
- 25日(土) 個別学力調査等(前期日程)(26日まで、学内一带)
- 26日(日) 外国人留学生入試
- 29日(水) 保健環境委員会(10:00～ 第三会議室)
教育著作権セミナー(14:00～ 第五会議室)
エコキャンパスづくり成果報告会(13:00～ 大学会館中集会室)

トピックス

台湾新竹教育大学一行が来学(2/1)

台湾新竹市の国立新竹教育大学の教授ら一行が2月1日(水)、松田正久学長を表敬訪問した。一行は教育学部長の張美玉教授をはじめ同じ大学の教員1人と、新竹縣・澎湖縣の小・中学校教員である大学院生5人の計7人。本学の理科教育講座理科教育分野の教員らが科研費での海外調査研究を契機に張教授との間で数年間の研究交流を重ねてきており、その縁で日本の学校教育視察という今回の訪問が実現した。



遠西昭壽教授・吉田淳教授・平野俊英准教授の引率による一行を学長室で歓迎したのは、松田学長、宮川秀俊国際交流センター長ら。松田学長からは歓迎のあいさつの後、本学の教育研究の概要や、台湾での国際交流協定校の現状などについての説明があった。一行の自己紹介や松田学長の台湾訪問エピソードを交えた歓談の後、記念写真撮影や記念品交換などが行われた。張教授からは、本学と

の国際交流協定の締結に関する新竹教育大学の希望が伝えられた。

なお、学長表敬訪問の前後では、本学の附属名古屋小学校・附属高等学校などで授業参観や教職員との意見交換が行われた。一行は「児童生徒の考えを活かした指導展開やそれを支援する教育技法の導入がすばらしく、新しい教育的知見が得られた」との感想を残して、翌日帰国された。

(理科教育講座准教授 平野俊英)

就職ガイダンス(2/1)

教員就職を志す学部3年生及び大学院1年生を対象とする就職ガイダンスが、2月1日(水)午後1時半から講堂で開催され、300人を超える学生が参加した。

ガイダンスの冒頭、松田正久学長が最近の教員就職に関する状況や今後の見通しに加え、一つの進路として教職大学院への道についても述べ、参加学生に教員採用試験の受験に向けてのエールを送った。

ガイダンスではキャリア支援課の担当者が、教員採用試験に向けた今の時期に知っておくべきこととして、願書の記載についての詳細な方法・記入内容の重要性、出願手続きまでのおおまかな流れ、過去問や先輩からの就職活動体験記等の情報提供、今後の教員就職支援策スケ





ジュール等の説明を行った。また、教員志望学生への就職支援対策として、小論文や面接の指導をより拡充する計画について述べ、必ず参加するように呼びかけた。

ガイダンス終了後には、案内のあった教員採用試験セミナー（論作文の指導）に多数の学生が申し込みを行っていた。
(キャリア支援課 佐藤孝政)

第2回LA防災セミナー(2/1)

防災に関する知識や意識を高める企画「LA防災セミナー」の第2弾を年2月1日(水)に開催。今回は大震災に関する映画「日本沈没」(小松左京原作)のDVD版を上映しました。

この映画では、日本海溝に異変を発見→突拍子無い規模の地震(日本沈没)の予知→信じるか否か?→国民を守る政策・外交→そして「沈没」、と展開します。特撮による生々しい映像表現による震災の怖さが体感されそうな各シーンにおいて、海底調査深海潜水艦の操舵士、地球物理学者、総理大臣など主人公達が、それぞれの立場から何を考え、どのように行動するか描かれています。



このセミナーは主に学生に観てもらうために企画し、震災予知から震災発生に至る過程で「自分ならどうするか」を想像させることを目的としました。主催者としてはあえて総括的な結論付けはせずに、参加者自身に考えてもらいました。映像の迫力は東日本大震災のニュース映像にはかないませんが、ストーリーが展開される中で長期的な見通しに立った考察ができることは、防災意識を再確認する上で効果的と考えます。映画や小説を通じたシミュレーションと、現実の報道ニュース、科学的知識に裏づけされた未来予測、これらを組み合わせる事で災害に備えるすべを学べると考えます。

「映画」という芸術的作品に触れる事で学びとする企画は、今後も継続的に開催していきたいと考えております。(リベラルアーツプロジェクト担当 理科教育講座教授 高橋真聡)

第41回ふよう美術展(2/1-5)

2月1日(水)~5日(日)、岡崎市美術館で「第41回ふよう美術展」(主催:愛知教育大学附属特別支援学校、後援:岡崎市教育委員会)が開催されました。小学部は「絵:みてみて げんきな ぼく・わたし」「立体:ふわふわどうぶつえん」



「ぼくの わたしの ゆめのくるま」、中学部は「絵:秋の公園で」「立体:お気に入りのぼうし」「ぼくの・わたしの夢の世界」、高等部は「絵:かお かお かお」「立体:ふよふよの森のなかまたち」と題して、計150余りの力作が展示されました。

高等部の生徒たちの「かお」の作品は、これまでの造形・表現の集大成のような迫力あるもので、筆者が小さく見えるほどです。いずれの作品も、支援・指導にあられた先生たちのきめ細かな準備と、個性を引き出す温かい働きかけがうかがえる小宇宙的な世界です。
(総務担当理事 折出健二)



花壇の整備(2/3)

本学の花壇整備第2弾として2月3日(金)午前10時から、正門から本部に向かう坂道の東



側斜面に 10 カ所の花壇を整備した。当日は雪こそ降らなかったものの、この冬一番の冷え込みの中、若手有志職員約 15 人が集まった。

斜面の掘削及び化粧ブロックの積み上げは工業者に任せしたが、「できるだけ自分たちの手で大学を良くしていこう」という方針から、軽石及び培養土をプランターに入れる作業や花の植栽は職員で行った。

植えた花の種類はビオラ、デージー、ストック、プリムラマラコイデスの 4 種類で、計約 150 本を植えた。初めて花を植える人も多く、四苦八苦している人もいたが、完成した花壇は坂道をきれいに飾った。

また、植物の名前やまめ知識を記載したプレー

トを各花壇に設け、見る人の興味をより引くよう工夫されている。

(財務部施設課技術専門グループ 倉橋幸佑)



学生と税理士が税の討論会 (2/3)

本学学生と税の専門家が議論を戦わせる全国初の授業が 2 月 3 日 (金)、第一共通棟 107 教室で行われた。学生、教員、名古屋国税局、税理士会が共に取り組むユニークな試みで、税のしくみから社会を捉える社会科授業づくりを目指している。昨年 10 月から週 1 コマ、同局部長等による講義なども実施され、この日はその集大成として 15 回目のまとめの討論の場となった。



今回のテーマは「社会保障と税の一体改革を問う」。社会科専攻の 2 年生約 50 人に加えて日本税理士会連合会の協力で愛知、静岡、茨城、埼玉県、東京都から 12 人の税理士が駆けつけた。真島聖子講師 (社会科教育) が「今日は税理士さんと討論をします。学生の皆さんの武器は若さです。将来の日本を担う社会の一員として、未来の子どもたちを教える教員として、若さを武器に税の専門家と向き合ってください」と話し、数人ずつの班に 1 人の税理士が付いて授業を開始。討

論では、少子高齢化社会での保障の問題点から、10%案の消費税、累進課税など税に関する幅広い議論が繰り広げられた。

税理士の説明に学生は「税を払っても、僕たちがもらえる年金は現在の 50 歳以上の人より 2000 万円少ないというニュースを見た」「消費税を上げて将来の保障の中身がわからない」「自分が金持ちだったら累進課税には反対」など不安や疑問の声を上げていた。討論後にそれぞれの班の学生は「教師になったら、なぜ税金を払わないといけないのか生徒に伝えられたらいいと思った」「消費税は新しい社会保障に使われ、結局日本の借金地獄は変わらず怖さを感じた」などと感想を述べ、授業の成果を披露した。

これまでの 14 回の授業で学生は、財政と予算、税のしくみとお金の使い道、税制度から考える地方分権などを学んできており、税務関係者は「学生はこれまでの勉強で税への関心が随分高まった。自分で税に関する新聞の切り抜きを持ってきていた学生もいた。これからも愛知教育大学との連携、協力を考えていきたい」と話していた。



「東日本大震災と日本の転換をどう教えるか-「東日本大震災報道写真展」巡回展一」(2/6-29)

2月6日(月)～2月29日(水)(休館日を除く)に附属図書館アイ♥スペースで、「東日本大震災と日本の転換をどう教えるか-「東日本大震災報道写真展」巡回展一」を開催しています。

東日本大震災や原子力発電所の事故によって未曾有の被害が生じ、復興や放射能除染など多くの課題が残されました。教育の観点からも、震災後の子どもたちの生活や復興のあり方、ボランティア活動など取り組むべき課題が生じています。震災後の日本は大きな転換期を迎えていますが、それをどのように教えるのかを、展示では具体的な授業での取組や学生のボランティア等の現地での活動など紹介しています。図書館で収集した震災に関する図書資料についても展示しています。

また、会場では震災後の様子や被災地の生活について理解を深めるために、中日新聞社、中日新聞社会事業団の後



援、東北写真記者協会、東京写真記者協会、日本新聞博物館の協力により「東日本大震災報道写真展」巡回展を開催。同巡回展は全国各地で開催されていますが、東海地方では初めて、大学での展示も初となります。

図書館を訪れる多くの学生が見学しており、震災の現実を目の当たりにし、認識を深めていました、また、新聞各紙にも紹介され、一般の方も多く見学されています。(地域社会システム講座准教授 水野英雄)

第7回日銀グランプリ優秀賞受賞報告会(2/8)

2月8日(水)午後零時半から、第一共通棟201教室で、第7回日銀グランプリ優秀賞受賞報告会が開催されました。既に新聞各紙で報道されていますが、昨年12月3日に開催された日本銀行主催の『第7回日銀グランプリ～キャンパスからの提言～』において、本学教育学部現代学芸課程国際文化コースの鶴飼遥佳さん、前田宗誉さん、村井望さんが「先生のための金融教育(小学校編/中高編)」という論文テーマにて、応募総数108件から優秀賞を受賞。本学の学生が難関を突破して優秀賞を受賞したことの意義は大きく、報告会の開催となりました。

当日は岩崎公弥理事(教育担当)が受賞者と受賞の意味を紹介。受賞した論文は学校教育の中



での金融教育の重要性とその実践のために教員になる学生にとってどのような金融教育が必要かについてアンケート調査に基づいて分析したものであり、教員養成改革が検討されている中で社会的意義も大きなものであること、審査は日銀副総裁はじめ経済に関する日本のトップレベルの学識経験者等によるものであり、受賞には高い水準が求められることの説明がありました。



村井さん、前田さんは不在で、鶴飼さんが3人を代表して報告しました。日銀グランプリと同じように、プレゼンテーション資料を用いて報告(15分)と質疑応答(15分)を行いました。内容はアンケート調査に基づいた鋭い考察や大学教育のカリキュラムへの提言もあり、学生には研究への取組や発表の方法について、教員にはFDの観点から、大変有意義なものとなりました。

論文やプレゼンテーション資料、受賞に関する詳細は日本銀行のホームページ http://www.boj.or.jp/announcements/nichigin_gp/ngp_release/index.htm/ に掲載されています。新聞各紙にも記事が掲載されました。(地域社会システム講座准教授 水野英雄)

第3回LA防災セミナー(2/8)

2月8日(水)午後1時30分から、第一共通棟201教室で、第3回LA防災セミナー「東日本大震災と日本の転換—経済と教育の視点から—」が開催されました。

本年度より文部科学省特別経費によるプロジェクトの一環として、教員養成系大学の特色を活かしたリベラル・アーツ型教育の構築に向けた取組を推進してきました。その中で、昨年3月11日に発生した東日本大震災による影響と、その後のわが国の大きな転換を教える



ことがリベラル・アーツ型教育の中で取り組むべき重要な課題であることを認識し、今回は岩田年浩大阪経済大学客員教授にご講演いただきました。

当日は田村建一教授(日本語教育)による趣旨の説明と岩田先生のご紹介の後で、岩田先生にご講演いただきました。

東日本大震災の発生やそれに伴う原子力発電所の事故によって未曾有の被害が生じ、復興や放射能汚染など多くの問題が引き起こされました。また、その影響は日本経済だけでなく、グローバル化を通じて各国経済にも及んでいます。そのような社会の転機を、経済と教育の視点から鋭く解説し、今後の日本の進むべき道筋を示されました。

岩田先生は多くの被災地を視察され、また阪神・淡路大震災のご経験も踏まえてご講演いただきました。また、学術的な講演だけでなく、一般向けの分かりやすい講演には定評があり、今回の講演でも、グローバル化や少子化のような日本の課題や、リベラル・アーツ型教育の発展の可能性についてもお話を伺いました。

教職員、学生だけでなく一般の方の参加もあり、また、講演後には質疑応答も行い、充実した内容でした。(地域社会システム講座准教授 水野英雄)



元素周期表サイト『げんそキッズ』開設1周年(2/9)

福島原発事故以後、セシウムやストロンチウムなど、馴染みのない元素名がニュースによく登場するようになり、子ども達の間でも、元素に対する関心が高くなっています。そんな中、国内初の子ども向け元素周期表サイトとして公開した『げんそキッズ』(<http://www.element.aichi-edu.ac.jp/>)が、2月9日(木)、1歳の誕生日を迎えました。このホームページでは、大学生協で販売中の『イラスト周期表下敷き』で描かれている元素イラストを使用して、子ども向けに全113種類の元素を紹介しています。大人でも楽しめる内容になっています。詳しくは、キーワード『げんそ』で検索してください。

(科学・ものづくり教育推進センター研究員 佐々田俊夫)



愛教大の造形展(2/11-19)

現代学芸課程造形文化コース陶芸専攻の卒業生と現役の学生による「愛教大の造形展」が2月



11日(土)、瀬戸市の愛知県陶磁資料館本館1階ギャラリーで始まった。19日(日)まで。

同展は造形文化コース中島晴美研究室の在學生と卒業生が「土の造形作品」をキーワードにしたグループ展として2007年から開催し、今年が6回目。今回は21人が計60余りの最新作品を出品。花卉のようなひだで覆われたオブジェ、立ち上がるような曲線が美しい作品、鋭い螺旋が力強いオブジェ、流れるような突起が目を引き急須や皿など、いずれも、それぞれが「土に正面から向き合った」個性あふれる作品ばかり。



出品者の4年生の学生は「私にとって土は入り込める素材。作っている最中が大切な時間です。先輩と一緒に作品が並ぶのは、刺激になります」。院生も「作品づくりには楽しさ

もあり、苦しさもありますが、見る人には見たままに感じてもらえたら嬉しいです」と見どころをアピールした。



韓国光州教育大学校学長一行が来学(2/12,13)

2月12日(日)から13日(月)にかけ、韓国の二つの協定校のうちの一つ、光州教育大学校の朴南基学長と金聖淑教授(美術教育)が本学を初めて訪問。12日は、日本文化に興味があるとの意を汲んで、松田正久学長らが徳川美術館に案内した。尾張徳川家ゆかりの品々、能舞台、茶室、源氏物語にちなんだ数々の展示品の見学、またちょうど雛祭りの特別展示もあり、三代にわたる豪華な雛飾りなど人形や調度品の数々には感嘆しきりだった。当日は、急きょ御園座での歌舞伎を見学する機会もあり、日本文化への関心が一段と増したようだった。



13日は、役員との懇談を行い、松田学長から本学の概要について説明し、特に韓国の国立大学で学長選出は直接選挙から公募制に変わるとあって、本学の学長選挙と学長選考会議の仕組みを詳しく説明した。その後、会場を第5会議室に移し、11時から12時20分まで「韓国の教員養成の現状と課題」について朴学長の講演会を開催。学生・教職員など約40人が参加、韓国での学長選出方法の変更に

関し、教育科学技術部(日本の文部科学省)と10教育大学の間で覚書を締結、朴学長は全国教員大学校連合会長として、その交渉の当事者であった。覚書では、教員養成大学校発展委員会を10大学学長や教育監(日本の教育長に相当、ただし予算権を持つなど権限は日本より強い)代表など20人で構成し、この委員会の下に5小委員会を設置し、教育研究の充実方策、入学定員調整(韓国では教育大学が小学校教員を養成、4年後の需要を見込んで毎年定員が変更される)、13年度からの博士課程の設置、グローバル化への対応などを審議し、その結果については教育科学技術部が全面的に支援



していくとされた。講演会では参加者から様々な質問がなされ、優秀な質問者には朴学長から千ウオンが渡されるなど、ユーモアあふれるハプニングもあった。

10 教育大学が教育科学技術部と対等の立場で交渉し、その結果、覚書を結び、双方がこの委員会の結論に尊重義務を負うなど、日本にはない仕組みに出席者は感心した様子だった。

書道専攻 9 期生・書友会「卒展」(2/14-19)

本学の書道専攻 9 期生と書のサークル「書友会」の卒業制作展が 2 月 14 日（火）から、名古屋市博物館で始まった。19 日（日）まで。

会場には、書道専攻の風岡正明教授、木村博昭教授、衣川彰人准教授の 3 ゼミの 4 年生計 14 人の 22 作品を中心に、在学生 15 人、卒業生 11 人、教員 8 人の約 80 展の書道作品を展示。幅約 3m、縦 2m40 cm の軸装をはじめ、卷子、色紙、半紙を



張ってコラージュ風に仕上げた共同作品など多彩なスタイルが並ぶ。題材は、各自が中国や日本の古典から選び、教員採用試験が終わった夏以降、練習を重ねて完成させた力作ぞろい。楷書や草書、隸書、行書と、それぞれに味わい深い書体で、訪れた人の目を楽しませている。

かな作品を出品した 4 年生の学生は「約半年かけて制作した大学での集大成の作品です。多くの人に見てもらいたい」と晴れやかな笑顔で話した。

お知らせ・報告・投稿

教員採用試験支援のための教員研修会開催(報告)

本学は、1 月 18 日（水）、キャリア支援・就職支援に対する教職員の理解の深化・意識改革を目的とする研修を実施した。この研修は 2010 年度から実施しており、今年度は 2 回目の開催になる。

今回は、大学教員を対象に「教員就職支援策に対する大学教員の役割」をテーマに開催し、当日は大学教員約 110 人が参加した。

研修会では、元公立小学校長で本学特別学長補佐の一宮登氏を講師に、「より多くの学生が受験し、また高い合格率を実現させることは可能か」との問題提起の下、本学の教員就職状況や国立大学における位置、教員需要の推移、学生の受験状況と試験結果、学部における履修成績状況・教育実習の成績状況と教員採用試験結果との相関関係等の現状分析及び課題の確認を行った上で、採用側が求める教師像と大学が養成する教員像や評価観点の比較について考察が行われ、養成側として大学が本来認識すべき事項を再認識する内容となった。



研修終了後、早速、参加教員たちは研修会場内で教育組織ごとに集まり、2012 年度実施の教員採用試験への対応などについて意見交換などを行っていた。

なお、この研修会は 2 回開催で、次回は 2 月 29 日(水)に「より多くの学生が受験し、また高い合格率を実現させるために大学教員は何をすべきか」との問題提起の下、開催予定である。
(キャリア支援課長 三浦孝史)

AUEウインタースクール「日本語集中研修基礎コース」を初開催(報告)

1月24日(火)から31日(火)までの日程で愛知教育大学冬季集中日本語研修基礎コース(AUEウインタースクール)を今年初めて実施し、台湾から2人の学生が参加した。



このコースは、日本語の中級入門レベル(日本語能力試験N3程度)の日本語基礎の授業と日本文化研修を合わせて30時間(及び2時間の評価)の集中日本語研修。日本語の授業と併せて、学長講義、日本の音楽、日本の地震などの授業が行われたほか、附属岡崎中学校訪問による教育現場の見学、附属特別支援学校訪問による子どもたちとの給食会等を通して、日本の教育に関する理解を深めた。



また、歴史博物館(岡崎城、三河武士の館家康館)、竜城神社、ひな人形センター、丸石酒造博物館等の見学及び京都研修旅行(二条城、清水寺ほか)の学外研修のほか、生け花体験、日本語教育の学生によるキャンパスツアー、日本のポップスの紹介、着物文化の紹介等も行われ、日



本の歴史や伝統文化に触れた。

研修の最終日には、研修生による日本語のプレゼンテーションが実施され、日本滞在、研修の感想を述べた。発表によると、研修生が一番驚いたことは、日本の至る所でのサービスやホスピタリティーの良さで、交通費や食べ物等が高いことなどにも驚いていた。台湾にはないのに、名古屋に台湾ラーメンの店があることが不思議だとも話した。

8日間という短い間だったが、講義、学外研修、日本の学生や子どもたちとの触れ合いなど、参加者にとっては、非常に有意義なプログラムとなった。



(日本語教育講座教授 稲葉みどり)

催しもの案内

◆いろんな手織物展

2月18日(土)～26日(日) 10:00～17:00 水曜休み 入場無料

刈谷駅前商店街「スペースAqua」

UNOセレクション。オオヤマ エリナ マルケッタ准教授(美術教育講座)と染色研究室の学生による手織物・染色作品を展示。

問い合わせ: スペースAqua TEL080-1568-2656

◆「卒展」

2月22日(水)～26日(日) 9:00～17:00(最終日は15:30まで) 入場無料

刈谷市美術館

美術・造形文化・大学院美術専攻 2011年度卒業・修了制作展

問い合わせ: 刈谷市美術館 TEL0566-23-1636

◆キャリア支援セミナー

2月22日(水) 13:30～15:00

第二共通棟 411 講義室

講師: 安城市長・神谷学氏

演題: 「市政を通じて地方公務員を知る」

対象：学部1、2年生および大学院1年生（その他の学生の参加も歓迎）

◆愛知教育大学混声合唱団 第42回定期演奏会

2月26日（日）17：00開場 17：30開演

三井住友海上「しらかわホール」（名古屋市中区伏見）入場料：500円

問い合わせ先：森さん ☎090-8327-0601

ホームページ <http://aikyoukon.lolipop.jp/>

◆第4回LA防災セミナー

2月27日（月）16：40～18：00

第一福利施設 生協2階「ハンズ」

テーマ：自然災害と坊さに関連した授業の実践—愛教大での事例紹介—

講師：星博幸准教授（理科教育講座）

対象：教職員、学生、学校職員、一般

本学における自然災害・防災教育（特に地震、火山、浸水、地質など）の実践例を紹介。授業で使用しているワークシート等の教材も紹介する。

問い合わせ先：LAプロジェクト担当研究員 内山☎0566-26-2552

◆招へい研究者による第4回講演会

2月27日（月）17：00～19：00

大学会館2階「中会議室」

講師：光州教育大学校（韓国）教授 Park Youn Ho氏

晋州教育大学校（韓国）准教授 Kang Hong Jae氏

内容：招へい研究者の研究テーマや出身国の国事情紹介など。

◆介護トーク昼食会

2月28日（火）12：00～12：45

本部棟3階「第二会議室」

テーマ：遠距離介護について（話題提供者 教育研究支援部長 三宅育夫氏）

次世代育成支援ワーキングが主催。昼食持参。参加自由。介護について、ざっくばらんに意見交換ができる会。現在、介護をしていない人も参加可能。

問い合わせ：（人事労務課労務係）☎：内線2126

◆「エコキャンパスプロジェクト」成果報告会

2月29日（水）13：30～17：00

大学会館2階「中集会室」 参加自由

外部評価者に環境省中部環境パートナーシップオフィス チーフプロデューサーの新海洋子氏、内部評価委員の折出健二理事、澤武文教授とともに、エコキャンパスプロジェクトの取り組み内容について考える。

問い合わせ：保健環境センター ☎0566-26-2187

◆愛知教育大学「教育著作権セミナー」

2月29日（水）14：00～16：00

本部棟3階「第五会議室」

対象：大学・学校の教員・職員、学生

講師：放送大学ICT活用・遠隔教育センター 尾崎史郎教授

大学・学校での教育研究活動に関わる著作権を、講師が分かりやすく解説。論文を書く、教材の作成、授業、試験問題作成などの際の参考に。

問い合わせ：情報図書課電子資料担当 ☎0566-26-2198

◆第4回愛教大アカデミックカフェ

3月1日(木) 17:15~19:15 入場無料、参加自由

テーマ:2011年度ノーベル物理学賞・化学賞を解説する!

講師:化学賞 住野豊助教 「パターン・模様 of 物理学」

物理学賞 伊東正人准教授 「宇宙を操るダークエネルギーの謎」

対象:教職員、学生、一般

カフェタイム 17:15~、講演(化学) 17:30~、休憩 18:15~、講演(物理)

18:30~。

問い合わせ:秘書広報課 広報室 Tel 0566-26-2738

編集後記

受験シーズン、まっただ中の2月。19日はよいよ今年4月に開講の静岡大学と本学の共同大学院博士課程の入試、25、26日は学部の前期日程個別試験が行われます。中でも、共同大学院の共同教科開発学専攻は、国立大学法人同士での設置、教員養成系での共同博士課程設置がともに初めてとあって、学内外からの関心が寄せられています。土日や夏休みに講義や研究指導が行われるので現職の教員や社会人にとって、画期的な学びの場となるはずです。例年以上の寒さ厳しい日々が続いていますが、試験会場には教育への意欲、高い志に燃えた“熱き受験生”が集まることでしょう。(K)

投稿のお願い

学内外の出来事(教育・研究・地域連携・国際交流・学内事業など)に関するニュースの提供をお待ちしております。

メール:kouhou@m.auecc.aichi-edu.ac.jp 編集責任者:総務担当理事 折出 健二